

## 17-13 授業解題

島名：グローバル・イシュー

教科(領域)：社会

単元(教材)：持続可能な開発

対象：附属桃山中学校1年2組

授業者：溝部卓司

### 1. グローバル・スタディーズの観点からみた本授業の「強み」

現代のグローバル化社会が抱える課題の中から、環境、人口、貧困、開発が絡み合う問題を中学校の授業で取り上げている。現代社会の複雑に絡み合った問題を解決するためには、異なる背景をもつ人々が協働することが前提となる。世界が直面する課題の一つを中学生が知り、それについて考えるだけでなく、その解決法を考える意欲的な授業である。

生徒たちはグローバルなイシューの一つとして地球の温暖化に「出会い」、対話的な学習方法で知識を「広げ・深めよう」としている。公開授業の流れとして、生徒が調べてきたことを基にして、班ごとに話し合って課題解決（温暖化の対応策）を考えた。

授業では10組の班が、それぞれの対応策プランを検討し、順番に発表した。奇想天外で実行不可能と思われるものもあれば、身近な解決につながる役立ちそうなアイデアがあり、地球温暖化対策として多様な課題解決方法を生徒たちが示すことができた。課題解決方法には、いくつもアイデアとしてありうることを生徒が認識することができたといえよう。

附属の生徒たちは班別話し合いに慣れているとは言えるが、本授業で用いた小型のホワイトボードを各班に渡し、班の意見をまとめて記入し、教室前方に置く。ボードに書いた字が大きいので、教室の後ろからも視認性が高い。生徒は書き込むキーワードを相談して選んでおり、各班の課題解決案の要点がわかりやすい発表となっていた。

### 2. 授業のさらなるグローバル化に向けて

世界が直面する課題に「つながる」方法として、中学生たちの当事者性(当事者意識)を高めることが求められている。教育過程(プロセス)として、課題解決のプランを自ら考える中で、実行可能性を推測し、グループ内のプランとして集約し、何が自分達ができるかを考える道筋がある。そのプロセスにおいて、中学生たちはグローバル化社会の一員として、課題解決の共同作業への参加方法を学ぶことにつながる。